

「母校に感謝」として、明治三十一年私塾として始まって以来の沿革が、裏面に校歌、校章が刻まれています。

建立を担当した閉校記念実行委員会の村上正敏会長が、関係者により除幕された記念碑について「明治以来、学校を支えてくれたすべての方々に對する感謝の気持ちを込めました。」とあいさつし、児童たちが自ら育てたヒマワリの種を添えた風船を、花を咲かせてと願って空に放ち、式を終えました。

なお同日、学習発表会に合わせて同校にまつわる昔からの写真アルバムを並べたコーナーが設けられ、地域の皆さんは、懐かしそうに見入っていました。

ビエンナーレ受賞作品等展示

洞爺水の駅二階

洞爺村国際彫刻ビエンナーレ2005は、総合センター

人の入場者を記録し、終了しました。

を会場に九月二十三日から十月二十三日まで開かれ、関係機関、関係者の皆さんの協力により、過去最高の四〇七七

その後、さらに多くの皆さんに作品を鑑賞していただくこと、十二月二十日頃まで洞爺水の駅二階の展示

室において、今回の

ビエンナーレ受賞作品、過去のビエンナーレF氏賞受賞作品及び写真家並河萬里氏の写真が展示されています。

この機会に、ビエンナーレ展覧会を見逃してしまった村民の皆さんや洞爺村を訪れる観光客の皆さんに、優れた作品をぜひご覧いただきたいと思います。



来村されたお客さんがビエンナーレ作品に見入る

街中のプランターの

片付けボランティア

洞爺村花いっぱい運動推進協議会（鈴木孝会長・事務局

に設置して、住民や観光客の皆さんに好評でした。

洞爺村教育委員会）では、市街地に花壇が少ないため、今年六月にボランティアの皆さんで大型のプランターを街中

同協議会では、冬が近づいたことから十一月六日午前九時半から洞爺水の駅前を中心に設置されたプランターの片付けを、ボランティアを募って実施しました。

呼びかけに応えて集まったボランティア十名の皆さんは、プランターの花を抜き、土をスコップで袋詰めして、空になったプランターを手

際よく次々と片付け、心地よい汗を流していました。

今後も、美しい地域づくりのため、花壇の設置や片付け作業には皆さんのご協力をよろしく願います。



プランター内の土を取り除くボランティアの皆さん